

施策案に対する意見等の概要と意見等に対する市の考え方

番号	意見等の概要	意見等に対する市の考え方
1	<p>将来都市像を考えた場合、交通需要の変化に対応する事はきわめて大切な事であると思います。東毛広域幹線道路全線開通、太田強戸スマートインター、太田桐生、太田藪塚インターと、北関東自動車道に市内で三ヶ所インターがあるというのはまちづくりの方向性にはかなりプラスになるはずですが、しかしまだ、慢性的な市街地の渋滞は深刻です。人口減少といっても太田市はそんなに深刻に考えなくてもよいのでは。公共交通の再構築や歩いて暮らせるまちづくり、多角的な環境保全に配慮した人と自然にやさしいまちづくりは現実的にかなりむずかしいのが実態ではないでしょうか。コンパクトシティをめざしている様ですが、本当にそれが正しい方向なのか疑問に思う事もあります。道路ネットワークの検証、見直し案の作成ですが、変更候補、廃止候補が具体的にあがっていますが、もう一度慎重に見直し案を検討してみる必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>太田市都市計画マスタープランにおいて、東毛広域幹線道路と北関東自動車道は広域交流連携軸に位置付けられており、市内三ヶ所のインターチェンジを最大限に活用したまちづくりを進めていきたいと考えております。市街地の渋滞については本市の課題として認識しており、群馬県等と連携し、渋滞解消に向けた交差点改良等の取り組みを行っております。近年、本市の人口は自然減で推移しており、社会増により総人口は増加しているものの、将来的に人口減少及び少子高齢化が進展すると予測されます。その対策として、コンパクトなまちづくりと公共交通を連携させた多極ネットワーク型コンパクトシティへの都市構造の転換は必要であると考えます。</p> <p>都市計画道路の見直し案は、平成17年の将来交通量推計データを基に平成28年3月に一度案を公表しておりますが、今回公表した見直し案は、平成27～28年度に実施された群馬県パーソントリップ調査(交通に関する実態調査)による最新の将来交通量推計データを用いて、慎重に再検証を行ったものです。</p>